

〔延喜式三十七〕凡山城國地二町在葛野郡十三條水谷下里四至東限岑山南限堀越山谷西限岑北限辛河合永爲殖供御地黄地

〔農業全書十種之類〕地黄

地黄是も四物湯六味丸等に入り、其外諸方に出たる良藥にて、醫家多く用ゆる物なり、土地にあひたる所にては多く作るべし、たねにする根を收め置事、冬月掘取たる中にて、甚大きも宜しからず、もとより小きはあし、中ほどなるを忍らびて、壺にても桶にても、又わらのふごにても、細沙を入れ、地黄をいけ置、風ひかざる様にすべし、尤かはきたるは痛むゆへ、肥たる沙を多く入て厚くおほひ、屋の内に置て、折々乾きて痛むや、否やを見て、又もとのごとく收めをくべし、うゆる時分は三四月よし、寒中より耕しこなし、糞をもうち、さらし置たるよし、若冬よりこしらへ置たる地なくば、早麥の跡もくるしからず、畦作りし、六七寸間を置て横筋を切、となりのかぶと、ぐのめになる様に、ならびは四五寸あてにうへ、土をおほひ置て、生付とひとしく、何糞にはかぎらず、多く入べし、其後がんぎの高き所を、左右へかきわけ、馬屋糞を入べし、なくばあくたにても多く入をくべし、此時は培ふに及ばず、初め苗の小さき時、二三度も根の廻りをかき、わきの土をもみくだき、一科つゝ、懇に培ふべし、始終畦の中に草少もをくべからず、掘とる事は、十一二月の間、すきか鍬を以て、根に當らざる様にほるべし、鐵を忌物にて、すきくはの當る事を甚きらへばなり、さて淨く洗ひ、筵などに攤げて、よく干あぐべし、干かぬる物にて、春までも晴天には毎日出して、中まで黒く成たるを見て、收めをくべし、大和にて作る法の大抵是なり、肥たる性のよき黒土よし、大和地黄のすぐれて大きは、一斤の代銀二兩許に藥屋へうると云なり、

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥

尾張國卅六種○中 干地黄六斗四升、相模國卅二種○中 干地黄三升○下